

## 学生・高校生 意見交換会（グループインタビュー） 結果報告（概要）

### 1. 目的

- ・総合計画の策定にあたって、市民の意向を広く把握するため、平成 17 年の 9 月に市民 6000 名を対象としたアンケート調査を実施し、統計的に有意な回収量である 2,842 票の（有効回収率 47.4%）回答を得たところである。
- ・しかしながら、アンケートの実施にあたって、アンケートとしての精度を高めるため、本市の年齢構成に即したサンプル抽出を行ったこと等から、中高年齢層と比較して、若い世代からの回答が相対的に少なくなっている。
- ・一方、若い世代は、総合計画が目指す次代の八戸を支える人材である。次代の展望を拓く総合計画の策定にあたっては、若い世代の視点からの意見を反映することが重要であるとともに、市民アンケート調査の補完及び多様な手法による市民参加を図る必要がある。
- ・以上のような趣旨から、このたび、市内の大学や高校等の御協力をいただき、学生・高校生を対象とした意見交換会（グループインタビュー / 1 校あたり 5 ～ 8 名のグループでの意見交換）を実施した。

### 2. 対象大学等及び高校

- ・大学等については、市内に立地する大学等高等教育機関として、八戸大学、八戸工業大学、八戸工業高等専門学校を調査の対象とした。
- ・高校については、学生の多様な意見を把握する趣旨から、普通科・実業科及び公立・私立のバランスを考慮し、公立普通科 1 校、公立実業科 2 校（工業及び商業）、私立 1 校を調査対象とした。

表 調査対象校と実施日等

#### 大学・高専グループインタビューリスト

学校名	実施日	時間
八戸工業高等専門学校	2 月 15 日	11 : 00 ~ 12 : 00
八戸大学	2 月 15 日	17 : 00 ~ 18 : 00
八戸工業大学	2 月 16 日	13 : 30 ~ 14 : 30

#### 高等学校グループインタビューリスト

学校名	実施日	時間
千葉学園	2 月 16 日	17 : 30 ~ 18 : 30
八戸高等学校	2 月 20 日	13 : 30 ~ 14 : 30
八戸商業高等学校	2 月 20 日	16 : 00 ~ 17 : 00
八戸工業高等学校	2 月 21 日	15 : 00 ~ 16 : 00

### 3. インタビュー項目

公共交通

中心街

好きなところ、誇れるもの

改善してほしい点、まちづくりへの提案

卒業後の進路

### 4. インタビューの結果概要

#### (1) 学生

##### 1) 公共交通について

- ・車での通学に制約がある学生からは、公共交通の利便性に対する指摘が多くあり、公共交通の利便性が暮らしやすさの評価に大きな影響を与えている。
- ・公共交通に関しては、路線拡大や増発は無理であるにしても、バスと鉄道との乗り継ぎ性の向上やバスカードの導入、一律運賃の導入（600円乗り放題など）、違法駐車対策と合わせた定時性の確保、パーク＆ライド（あるところまで、自動車アクセスして、そこから先は公共交通に乗り換える）など、比較的ソフトで現実的な視点からの提案がなされた。

##### 2) 中心街について

- ・買物等において中心街を訪れるという意見は少なく、特に男子学生に顕著である。買物は、下田ショッピングセンターやピアドゥ等の駐車場が完備したショッピングセンターの利用が多い。
- ・また、インターネットで買物をするという意見も多く、送料代とバス代を比較すると、送料代の方が安いという意見もあった。
- ・中心街が支持されない理由としては、第一に駐車場の問題が指摘されたほか、有料ではゆっくりとウィンドショッピングを楽しめないという意見も出された。品揃えに対する意見もあったが、総じて駐車場の問題を指摘する意見が多い。女性モノは、比較的揃っているという評価もなされている。
- ・一方、中心街に賑わいがいいことを指摘する意見や、中心街は、郊外型のショッピングセンターでは代替できない役割があるという意見もあった。中心街については、単なる買物の空間として捉えるのではなく、賑わいをはじめとした都市の「顔」としての役割を期待している。

##### 3) 好きなところ、誇れるものについて

- ・八戸の好きなところとしては、海、蕪島、種差海岸を指摘する意見が多くあった。
- ・また、新井田川や南郷区の丘陵も好きなところとして意見が挙げられた。
- ・特に食文化については、他の地域の人に紹介したいものとして挙げられていた。食文化との

関連では陸奥湊（中心街とは異なる活気があるという意見もあり）や八食センターが具体的な場所として挙げられた。

- ・また、住んでいる自分たちには「良さ」や「個性」の基準がわからないので、外部の人の意見をもっと聞くべきという客観的な意見も出された。

#### 4) 改善してほしい点、まちづくりへの提案

- ・身近な生活に関わる領域としては、除雪の充実（特に歩道除雪）や、街なかの緑、交通渋滞の解消、犯罪の少ない安全なまちづくりが挙げられた。若者ならではの意見としては、若者が楽しめる場所、遊べる場所が少ないという意見があった。
- ・社会的・公益的な領域としては、ゴミの分別の徹底をはじめとした環境問題や、循環型社会の形成に対して積極的に取り組むべきという意見が出された。

#### 5) 卒業後の進路について

- ・卒業後は、八戸で就職したいという意見が多い。しかし、雇用情勢が厳しいため、止む得ず県外で就職する可能性があることが指摘された。
- ・雇用の場を確保するため、企業誘致に力を入れて欲しいという意見があった。

## (2) 高校生

### 1) 公共交通について

- ・自動車を運転できない高校生は、公共交通に頼らざるを得ない。このため、公共交通のサービス水準によって生活行動の圏域が決定されている。また、バスの料金が高校生にとっては割高であり、利用しにくい要因となっている。
- ・通学・帰宅時のピークは、車内が混雑していることから、ピーク時のサービス向上（増便や鉄道の場合は車両の増加）を求める意見があった。
- ・また、バスの行き先・乗り換え案内がわかりにくいいため、電話での問合せなど案内サービスの実施や、バスの運行位置がわかる案内システム（バスロケーションシステム）、鉄道とバスの乗り継ぎ性の向上など、システム・ソフト面での改善の提案があった。

### 2) 中心街について

- ・高校生は、自動車を運転できないこともあってか、大学生もよりも中心街に遊びに行くという意見が多かった（工業高校の生徒はラピアが近いため別）。
- ・住みやすさの条件として、中心街の活性化を挙げる意見も多い。
- ・このため、個々の店舗・サービスの充実（ファッション、本屋・CD等専門店、店飲食サービス、映画等娯楽）を指摘する意見も多い（普段利用しているが故に、気がつく点も多いと考えられる）。

- ・また、高校生は自由になるお金に制約があるため、小広場などお金を使わないで遊べるところが欲しいという意見も挙げられた。

### 3) 好きなところ、誇れるものについて

- ・好きなところ、誇れるものについては、大学生より多様な意見が出たことが特徴である。
- ・具体的には、三社大祭やえんぶりなどの伝統的な催事や、八戸人の優しさといった精神性、種差海岸や南郷の丘陵の自然、せんべい汁やイカ、ブルーベリーなどの食文化、夏の涼しい気候特性、氷都・スケートなどが挙げられた。
- ・また、三社大祭やえんぶりは、東京方面からの観光客の誘致も含めて、もっとPRすべきという意見もあった。

### 4) 改善してほしい点、まちづくりへの提案

- ・女子生徒は、街の安全性に対する意識が高い。街灯のないところが怖いという意見があった。
- ・歩行空間の快適性を求める意見が多く、歩道が狭いことや、降雪時に歩きにくいといった意見が出された。また、ノーマライゼーションを実現したまちづくりを求める意見もあった。こうした意見は、大学生にはなかったものであり、高校生の移動手段が、徒歩・自転車であることが背景にあると思われる。
- ・若者ならではの意見としては、街の賑わいや活性化に関するものが多い。魅力的なイベントの企画や、若者が遊べる場所の充実に対する意見が挙げられた。
- ・なお、既存のイベントについては、PRをもっと強化すべきとかイベント内容を充実すべきといった意見があった。
- ・高校生はパソコンよりも携帯サイトの方が身近に日常的に使っているので、市で行われるイベントや情報などを携帯で提供した方が良いという意見もあった。
- ・コミュニティに関する意見もあり、中高齢の方々が町内会などの地域活動をしており、自らも内容によっては関わりたいということであった。

### 5) 卒業後の進路について

- ・進学希望の生徒は、東京を含めて県外を希望する意見が多い。理由としては、自分のやりたいことを学べる学校がないという意見が多い。
- ・また、県外で進学希望の生徒は、大学卒業後も八戸に戻る意向が低い。理由としては、卒業後の就職先について、主として東京等大都市に立地する企業や機関を希望するという意見が多い。
- ・また、今は戻る意向をもっているが、一度、便利な都会に住んでしまうと戻れないのではないかという意見もあった。
- ・就職希望の生徒は、八戸での就職を希望しているが、就職先が少ないという指摘があった。働きたいと思える雇用の場を得るためにも、企業誘致を図って欲しいという意見が出された。